

令和5年度（2023年度）第1回北海道総合保健医療協議会地域保健専門委員会  
アレルギー疾患対策小委員会（第1回北海道アレルギー疾患医療連絡協議会）  
書面審議の結果について

**委員長及び副委員長の選定について**

令和5年度（2023年度）当委員会における委員長・副委員長については、事務局案のとおり全委員より承認いただき決定しましたので報告します。

| 区分   | 所属                        | 職    | 氏名    | 任期              |
|------|---------------------------|------|-------|-----------------|
| 委員長  | 北海道医師会                    | 常任理事 | 三戸 和昭 | 令和6年<br>6月30日   |
| 副委員長 | 北海道大学大学院医学研究院<br>呼吸器内科学教室 | 教授   | 今野 哲  | 令和6年<br>3月31日*1 |

\*1 現所属の任期に合わせて3月末までとする。

**報告事項1**

**北海道医療計画（H30～R5）推進状況及び評価 令和4年度について**

事務局より提案した年次評価への御意見等については、下記のとおり対応する考えです。

| 委員名・意見等   | 対応   |
|---|--|
| <p><b>【下山委員】</b><br/>より良い推進となるべく、改善が図られています。</p>  | <p>アレルギー疾患を有する方が、居住する地域に関わらず適切な医療を受けることができるよう、引き続き、拠点病院及び地域協力病院と地域の医療機関・薬局との連携体制の構築に取り組んでいきます。</p> |
| <p><b>【木村委員】</b><br/>順調であったと思います。<br/>また、コロナ禍における「マスクの着用」「外出を控える」等は近年増加傾向にあるシラカバ、カモガヤ等の花粉症対策にもなっていたと思います。</p> | <p>令和5年3月13日からマスクの着用が個人の判断に委ねられたことから、花粉症の症状を有する方の増加などに注視し、適切な医療につながるための情報提供に取り組んでいきます。</p>         |
| <p><b>【松浦委員】</b><br/>課題に示されたとおり、居住する地域に関わらず、受診者のニーズに応じた適切な医療を受けることができる医療体制の充実が求められると思います。</p>                 | <p>地域の医療機関・薬局に対する研修会の開催、保健所による相談体制の充実、住民への講習会などの啓発活動にも取り組む必要があると考えております。</p>                       |

## 協議事項 1

### 新たな北海道医療計画（仮称）（R6～R11）素案（たたき台）について

事務局より提案した素案（たたき台）については、事務局案のとおり全委員より承認いただきましたので報告します。

なお、いただきました御意見等については、下記のとおり対応する考えです。

| 委員名・意見等   | 対 応  |
|---|--|
| <p><b>【宇野委員】</b><br/>意見ではありませんが、感想として「医療提供体制の確保」に薬局が明示されたことは医療用医薬品、OTC医薬品いずれの供給にも携わる薬局としてアレルギー疾患を有する方の気軽な相談場所として機能できるものと考えます。また薬局は比較的施設数が多く、広域な北海道においても気軽で身近な相談窓口となりえますが、そのためには拠点病院や地域協力病院がどこなのかなどの情報と初期相談に適切に対応できるスキルを身に着けるための研修等も必要と思われます。これに関する研修等の実施は薬剤師会も協力して行う事も可能です。また薬剤師には学校薬剤師とし活動しているものもいますので、学校現場でのアレルギー対策に対しても協力できるものと考えています。</p> | <p>薬局薬剤師への情報提供や相談対応力の向上を目指した取組などについても、今後検討していきます。</p>  |
| <p><b>【木村委員】</b><br/>日本の国土の22%を有し、人口が偏在する北海道で、「その居住する地域に関わらず、等しくそのアレルギー疾患に応じて適切な医療を受けることができるよう・・・」は大変難しい事と思います。専門医がいる都市部とそれ以外の地域は同じ体制では無理かなと思います。</p>   | <p>道内のアレルギー専門外来及び専門医は都市部に集中していることから、アレルギー疾患を有する方が、居住する地域に関わらず適切な医療を受けることができるよう、拠点病院及び地域協力病院と地域の医療機関・薬局との連携体制を構築することが必要と考えております。<br/>また、地域の医療機関・薬局に対する研修会の開催、保健所による相談体制の充実、住民への講習会などの啓発活動にも取り組む必要があると考えております。</p> |
| <p><b>【水谷委員】</b><br/>アレルギー疾患医療拠点病院、地域協力病院が選定されて、よりきめ細やかな情報の提供や治療がなされる体制ができたことは、とても良かったと思います。地方にいてもアレルギー疾患の患者さんが安心できるよう運用していければと思います。</p>  | <p>アレルギー疾患を有する方が、居住する地域に関わらず適切な医療を受けることができるよう、引き続き、拠点病院及び地域協力病院と地域の医療機関・薬局との連携体制の構築に取り組んでいきます。</p>   |
| <p><b>【亀畑委員】</b><br/>（アレルギー疾患医療における連携図について）<br/>患者家族が中心となった図で整理されましたが、患者が身近なかかりつけの医療機関に受診することや、</p>   | <p>アレルギー疾患医療における連携のイメージについては、「患者・家族」と関係機関の役割や機能がわかるように修正します。</p>   |

|  |                |
|--|----------------|
| <p>情報提供を受ける等の図になっていない（現行計画のような矢印等がない）ことから修正等が必要と考えます。</p>  | <p>（図1 参照）</p> |
| <p><b>【浦崎委員】</b><br/> （アレルギー疾患医療における連携図について）<br/> 患者家族から引かれている青い線と左の「北海道」「保健所」との間に引かれている青い線が何を指すのか不明瞭に思いました。（現行計画の方は「情報提供」「研修」などの言葉があります。）</p> |                |